ただいまは、次期会長としてのご信任を頂き、まことにありがとうございます。

これからの2年間は、これからご協議いただく、公益法人改革に向けて準備をし、申請、認可を受けるまでを行わなければなりません。これは、待ったなしの改革で、平成25年11月までには認可を終えていなければならないことになっております。といわけで、これが、会にとっては、一番重要な仕事だと思っております。

最近は、冒頭のあいさつでも述べましたが、財界紙や色々なところで、歯科のことが取り上げられるようになりました。

つい、先日も読売新聞に「歯学部の人気回復なるか」という題の記事が載っておりました。経営環境が以前より厳しくなり、私立大学の入学志願者数が2010年度には、今までの半分の4914人にまで落ち込んだと書かれていました。

そのあと、色々書かれていましたが、最後に、現在の高齢化社会の中で、口腔ケアなどの新しい分野に歯科医師のマンパワーを振りむけるべきではないかというようなことが結論として書かれていました。我々にとって、そんなことは他人から言われなくても、百も承知なわけですが、

岩歯として、一昨年事務所に在宅歯科診療の窓口を立ちあげ、希望者を募ってきましたが、あまり効果がないのが実情であります。

来週の3月25日には、口腔機能向上プログラム事業を来年度から、立ち上げるべく、打ち合わせを行うことになっております。また、保健センターに歯科衛生士が常駐してもらえるように、働きかけを行っています。口腔ケアに関しては、色々な事業がからみ合って、これからの2年間で、少しでも皆さんの役に立つような形になればと思っています。

まあ、そのほかにも色々な事業を行っていかなければなりませんが、公益法人改革ということで、公益法人であれ、一般法人であれ、公共の利益になるための事業が重要視されてまいります。また、モデル定款を見てみますと、社員というような、いわゆる会社組織の要素が色々と加わってまいります。そういう意味で、会員同士の和が、希薄になることを最も懸念しております。

　このような状況の中で以前にもまして、会にとって一番大事なのは、会員同士の和であります。これからの2年間は、引き続き、会員の皆さんのための世代間を超えた、親睦の和をどのようにしたら広げていけるかを考えて、事業を行いたいと思っております。

　今後2年間、また、皆さんのご協力を仰ぐことになります。改めて、絶大なるご協力をお願いしまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。